

「田植踊の歌」奉納し、豊漁や豊作願う 福島・浪江で安波祭



▲「請戸の田植踊」の歌を奉納する佐々木会長(手前)ら請戸芸能保存会の会員

東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた福島県浪江町請戸地区の苜野(くさの)神社で20日、豊漁や豊作を願う「安波祭(あなばまつり)」が催された。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、神社関係者らによる神事のみ執り行われた。

同神社の主催、約30人が津波の被害を受けた社殿跡に集まった。同地区の復興や同神社の再建を願う祝詞が奏上された。

伝統の「請戸の田植踊」は披露されなかったが、請戸芸能保存会の佐々木繁子会長(71)いわき市に避難の提案により、会員が田植



MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」改め「すけさきた」しんぶん

復興支援 かわらばん

「すけさきた」とは宮城県登米市あたるの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である



踊の歌を奉納した。佐々木会長は「新型コロナウイルスの早期収束と、一日でも早い神社の再建を願って歌った」と振り返った。

苜野神社の氏子総代長を務める五十嵐光雄さん(74)富岡町在住は「田植踊の歌が流れて、人々の思いが一つになったのではないかと語った。

会場には震災前後に催された安波祭の写真が展示され、参加者は田植踊が披露された当時は懐かしんでいた。祭りは震災と東京電力福島第一原発事故により中断していたが、2018(平成30)年に地元で復活した。

(3月7日 ANNネットワーク テレ朝NEWS)

まもなく東日本大震災から11年です。その教訓が今年、遠い南の島トンガの大災害で生かされました。

「一本の道」が多くの人々の命を救いました。海底ケーブルが復旧し、当時は分からなかった被害の映像が入ってきました。

かつて、ここには家が並んでいましたが跡形もありません。

【震災11年】トンガ噴火 命救った「TSUNAMIドリル」

1月、海底火山の噴火によって世界各地で津波が起きました。その中心、トンガは最大15メートルの津波に襲われ、死者は3人でした。

島の高台にある避難者のテントから一本の道が続いています。東日本大震災の教訓で作られた「津波ドリル」という避難訓練でできた道です。

島民は、津波が襲った日、この道逃げました。

国家非常事態対策室副室長モワナ・ファカヴァ・キオアさん。「トンガでは、何度も「津波ドリル」を実施し、避難のための様々な訓練を行いました」

東日本大震災の後、トンガは日本に職員を派遣して「とにかく、すぐに逃げることを学んでいました。」

島民は「あの日、防災無線は鳴らなかった。前もって避難経路を決めていなければ、誰も助からなかった」と話しています。



東日本大震災から11年が経過しました。被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。令和4年3月11日 西表島エコツーリズム協会